

女子学生の情報発信の現状と意識

吉岡 朋子, 風間 健

(武庫川女子大学生活環境学部生活情報学科)

Present Activity and Viewpoint of Sending Information by Female Student

Tomoko Yoshioka, Ken Kazama

Department of Human Informatics,

School of Human Environmental Sciences,

Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan

Abstract

The purpose of this paper is to find the character of each method of sending the information that the female students felt it. For this purpose, 123 female students were asked to record their all kinds of dispatches for one week. And their impression to each method was also asked to describe. The main results are as follows.

1. Handy-phone had the most frequent use. And its use time was short.
2. Home telephone had the longest use time per one use.
3. Four kinds of telephones occupied the almost use time. But partially, if recipient was their friend, the other methods were also used, and if work, facsimile was used.
4. In the case of telephones, lower cost caused longer use.
5. The evaluation by merit and demerit of each dispatch method gave the excellent points to home telephone and public telephone.
6. The evaluation on conversation gave the excellent points to low cost and high persuasive power.

1. 緒 言

情報の発信手段が急速に多様化している。かつてポケベルの流行を担った女子高校生は、いま大学1年生である。これらの学生がどのような情報発信をしているか(現状)と、彼女らがそれぞれの発信手段をどう考えているか(意識)を調べることによって、彼女らが捉えている発信手段の特徴を知ることを目的とした。

2. 調査方法

武庫川女子大学生活情報学科1年生を対象に①1998年6月17日～7月13日の間の1週間について、情報発信の記録(発信日誌)を求め、また②意識に関する自由回答を求めた。有効回収数は123票であった。調査結果の回収時期は1998年7月14日に回収された。

アンケートは次のとおりである。

「あなたが1週間の間に行った情報発信について、任意の5種類の発信手段に限り次の様式に従って記録を付けて下さい。次にそこで取り上げた発信手段に対して、情報発信手段としての長所と短所を論じ

なさい。

発信記録の様式(ただしコメントは、内容の注釈、手段としての評価、問題点など)

発信手段、発信日、発信先、内容、時間、コメント、意見・評価

3. 調査結果

3.1 回収された調査票

回収された調査報告の1例を Table 1. に示す。

Table 1. A Example of Report(Part)

発信手段	発信日	発信先	内容	時間	コメント	意見・評価
自宅電話	7/3	友人	宿泊研修	45分	長電話した	(長所)安い
	7/4	祖父	体調は?	5分		(短所)つい長くなるので家族がうるさい
	7/7	友人	旅行計画	10分		
Eメール	7/2	友人	遊ぶ相談	10分		キーボードに熟練していないので入力に時間がかかる
手紙	7/2	友人	近況報告	30分	手間がかかる	(長所)相手が都合の良いときに読める (短所)相手が読むまでが長い

3.2 記録の集計

この調査票の発信記録は、発信手段別、受信者別に回数と時間を集計し、また発信手段別に受信者をすべて合計した回数と時間を求めた。これを次の受信者別に Table 2. に示す。

受信者①友人(クラスメート、級友、クラブ、サークル、先輩)。②家族(親類を含む)。③彼氏。④バイト先。⑤受信者の無記載。⑥その他の発信先(懸賞応募など)。

また発信手段の一部の呼称を、次に解説する。自宅電話は、一般加入と呼ばれる固定式の電話を指す。「メールサービス」とは、携帯電話と PHS が持つ文字サービスを指し、例えば J-PHONE のスカイメールでは半角 128 文字を 10 円で送信できる。インターネットは発信の場合のみを取り上げており、チャットへの参加、アンケート・懸賞への応募を指す。

Table 2. Sum of Frequency and Time of Dispatch on Survey Data (単位:回数 回/週, 時間 分/週)

対 象		携帯	PHS	メールサービス	自宅	公衆	Eメール	インターネット	FAX	手紙
友 人	回数	457	150	77	353	81	198	5	36	95
	時間	2553	1005	37	10977	264	2249	270	96	3617
家 族	回数	106	10	—	70	53	6	3	6	8
	時間	347	235	—	1005	236	68	120	56	302
彼 氏	回数	33	4	4	32	3	3	—	—	—
	時間	564	10	1	292	20	16	—	—	—
バイト先	回数	5	—	—	16	16	—	—	12	1
	時間	10	—	—	83	42	—	—	40	10
無 記 載	回数	286	12	—	90	8	15	28	9	4
	時間	1367	112	—	1493	14	107	1286	70	30
そ の 他	回数	1	—	—	2	1	—	2	1	5
	時間	10	—	—	13	10	—	15	1	20
合 計	回数	888	176	81	563	162	222	38	64	113
	時間	4851	1362	38	13863	586	2440	1691	263	3979

3.3 自由回答の整理

各自の記録した発信手段に対する意見、評価は、発信した経験に基づいて、長所、短所に分けて記述された。これを発信手段別に次の8評価項目に分けて整理した。この中には、学生が感じとった発信手段に対するナマの満足、不満、感激などが表現されている。

発信手段の評価項目

- ①取り扱いの容易さ:発信の容易さを取り上げる。準備や熟練を要したり、条件が整って始めて交流できるものは発信手段として劣る。
- ②伝達速度:発信してから受信者に届くまでの時間である。
- ③普及率:発信は、受信者が発信された情報をを受信する手段を持つ必要がある。電話のない相手には電話が掛けられない。したがって手段の普及率が、発信には重要な意味を持つ。
- ④基本機能:その発信手段が本来持っている情報機能。
- ⑤付加機能:後から便利さを増すために付け加えられた機能。
- ⑥コミュニケーション機能:その手段を用いることで可能になる独得のコミュニケーション。
- ⑦コスト:他の手段に比べて高いか、安い。
- ⑧その他:上記7項目以外の評価項目。社会性など。

【自宅電話】

[長所]①取り扱い:使い方が易しい。②伝達速度:すぐに返事が聞かれる。③普及率:普及率が高い。④基本機能:電波のように攪乱されることがなく、いつでもよく聞こえる(音がよい)。⑤付加機能:留守電が可能。キャッチホンが可能。トクな使い方がある((例)定時制:テレホーダイ)。⑥コミュニケーション特性:言いにくいことが言いやすい(顔が見えないからか)。⑦コスト:親が支払うので自分としては安く付く。⑧その他:自由な姿勢で話せる(寝ころんで等)。

[短所]①取り扱い:親に気を使う(長時間掛けにくい。夜遅くはダメ)。家族が使っていると使えないので不自由。④基本機能:相手が居ないとつながらない(携帯との比較)。相手の都合にお構いなし。本人が出るとは限らない(家の人が出るといや:携帯との比較)。いたずら電話が多い。⑥コミュニケーション特性:つい雑談をしてしまい長電話に成りやすい(携帯に比べて安いので)。

【携帯電話】

[長所]①取り扱い:自分専用。④基本機能:どこからでも通話可能。ただし地下はダメ。必ず本人が出る。待ち合わせに便利。歩きながら話せるので、初めての場所を歩きながら訪ねるのに便利。身の安全を守るのに便利(変な男を見たら、通報する、迎えを頼む)。⑤付加機能:通話記録が取れる。相手の番号が表示される。マナーモード(小声)あり。電話番号が出るので、イヤな人には出ないで済むし、後から掛け直せる。⑥コミュニケーション機能:つまらない話でも話しやすい。

[短所]④基本機能:いつでも呼び出されるのはプライバシーの侵害か。電波の届かぬ場所が多い。充電が必要。⑦コスト:高い。掛ける相手の機器によっても変わる。留守伝メッセージをセンターから聞くのが高い。⑧その他:ところ構わず鳴る(迷惑行為)。運転中に聞くと事故のもと。

【PHS】

[長所]④基本機能:歩きながら掛けられる(行き先を聞くのに便利)。⑤付加機能:電話機の種類が多くかわいい。電話番号を記憶している。「着信あり」表示で掛け直せる。留守電が便利。Pメール(DDIポケット電話)は文章を作ってから送れるので経済的;20文字で10円。時計・目覚ましに使える。電話帳がある。

[短所]④基本機能:電波の届かぬ場所がある。他人に聞こえる。小さいので探していることが多い。手から落とす。⑧その他:電磁波が体に悪い。

【公衆電話】

[長所]④基本機能:携帯の電波が悪いところでも平気。⑤付加機能:ベルを10円で打てる。⑦コスト:テレカがあるのでタダ。

[短所]④基本機能:場所を探すのが大変。カードか現金の一方しか使えないことがある。⑦コスト:100円でおつりが出ない。⑧その他:混んでいて行列して待つ。狭い。汚い。周りがうるさい。

【手紙, はがき】

[長所]④基本機能:プライバシーが守られる. 不在でも届く. 保存される. ⑤付加機能:色や絵を自由に入れられる. お金, 写真, プリクラも送れる. ⑥コミュニケーション機能:心がこもる(気持ちが伝わる). 考えながら書ける. 言いにくいことを伝えやすい. ⑦コスト:一律料金なので, 遠距離(特に外国)は安い.

[短所]①取り扱い:文章書きがしんどい. 字が下手なのでいや. 宛名書きが面倒. 出しに行く手間がいや. ②伝達速度:時間が掛かる(書くのに, 出すのに, 届くのに). ④基本機能:封筒, 便せん, 切手が必要. ⑦コスト:高い(ファックスより高いイメージがある. 重い郵便は宅急便より高い).

【FAX】

[長所]①取り扱い:使用方法が容易. 電話のように話が長くなならないのもよい. ④基本機能:留守でも受信. 絵やノート, 地図(集合場所)も送れる. 両方に原稿が残る. ⑤付加機能:通販や照会にボタン応答が便利. ⑦コスト:安い.

[短所]③普及率:普及率がまだ低い. ④基本機能:届かぬか不安. 誤送がある. 薄い紙が発信できない. プライバシーが守られない.

【Eメール】

[長所]②伝達速度:直ぐ送れる. ④基本機能:活字できれい. 記録, 整理, 保存が可能. 紙や鉛筆が不要. 他人に見られない. ⑥コミュニケーション機能:気楽に書ける.

[短所]①取り扱い:パソコン立上げに手間と時間が掛かる. アドレスがわからないし, ややこしい. 慣れるまで面倒. ③普及率:普及率が低い. ④基本機能:届いたか不安. 直ぐに返事が来ない. 誤送がある. 直ぐに見てくれない. プライバシーが守られない場合もある. ⑥コミュニケーション機能:あじけない.

【インターネット】

[長所]④基本機能:遠くの人, 同じ趣味の人との交流に便利. オールスター・ファン投票をした.

3.4 会話の集計と整理

発信手段のうち, 「会話」については回答者によって会話に含める範囲が異なったので, 集計が困難になった. 例えば販売のバイトで, 接遇の会話を記録に入れた者と除いた者があった. そこで発信手段としての会話に対する記録と評価を他の発信手段とは別に本節においてまとめ直した.

なお発信手段として会話を記載した人数は 66 名である.

(A)受信者別の発信内容

【友達】(寮, 大学, 高校, クラブ, サークル, 幼なじみ)

テレビ(ドラマ)・ビデオの話. 身近なこと(世間話・天気・授業・テスト)の話. 宿題・レポート・復習(会話しながらだと効率よし). 遊び(プリクラ・占い・旅行・笑い話). 趣味(クラブ・CD・馬・ペット). 芸能関係(コンサート・ゴシップ). 悩み相談・人生観・将来. 予定の打ち合わせ(ショッピング・花火・本の借用). 誕生日. 美容・健康(ファッション・歯医者・髪の毛). かっこいいと思う顔とは. 高校時代の思い出話. 同窓会. 家事(洗濯). 車の免許. 夏休みの予定. バイト.

【家族】(親類など)

挨拶. その日の出来事. テレビ・新聞の話題. 予定について(食事の献立・帰宅・帰省・コンパ・デート・おいしいパン屋さん). 母との会話は多いが父との会話は少ない(18:1). 蚊の駆除. バカな話題は姉妹と. 体のこと(姉とが多い). 選挙・就職(父とが多い)

【彼氏】

あいさつ(モーニングコール, お休み). 日常会話. デート(約束, 思い出). 喧嘩の仲直り

【先生】

授業の質問. 世間話.

【ペット】

ペットとのコミュニケーションが楽しい. 犬は内容がわからないから何でも言える.

【バイト先】

仕事の内容. お互いの大学の話. 面接. プライベートなことも. バイト客に商品説明.

(B) 会話の意義

イヤなこと、辛いことを話していると気が紛れる。すっきりする。相手は疲れるが……。話さなくては生きていけない。会話は人間の原点。会話はコミュニケーションの基本。会話は数え切れないほどするもの。会話は人間関係を築く。助け合いの手段。会話は最大の情報源。会話は楽しい。最も楽しい時間だ。リラックスできる。心の安定が得られる。ムダ話もストレス解消に役立つ。よい家族には会話がある。

(C) 会話の基本機能

[長所]他の手段より深い話ができる。世界が広がる。会話は何度も繰り返すことで、お互いを知り合うもの(時間が必要)。すぐに答えが得られる(相手の反応がわかる)。相手に伝わったことが確認できる(FAXやEメールとの比較)。

[短所]ごくくだらないことも話してしまう。一緒にいるとイヤでも会話しなければならない(寮にいと特に)。授業の妨げになる(授業に集中できない)。話が乗るとつい声が大きくなる。言葉遣いが問題になる。一旦口に出したら取り返しが付かない(取り消しがきかない:手紙との比較)。一言が相手を傷つけることも。他の手段より記憶に残らない。内容を覚えていない話も多い。つい長くなる。別れるときがイヤ。

[その他]バイトの接客で会話の難しさ、重要性を学んだ。よく話す相手が偏る。相手の好き嫌いが、会話のはずみ方に反映する。聞き役に回っていることが多い。べらべらと幾らでも続く。

(D) 会話のコミュニケーション特性

[長所]思ったことを気楽に伝えられる(他の手段よりも)。用事が無くてもする(他の手段は用事が前提)。その場の空気を見ながら話せるので、ことがスムーズに運ぶ。ジェスチャーが入るので、わかりやすい(伝わりやすい)。資料(地図、雑誌など)を見せながら説明できる。相手に触ることができる。わからないとき直ぐ聞ける。思いがこもる(電話との比較)。相手の感情が見える。多くの人と同時に話せる(電話との比較)。

[短所]相手に会えないとダメ。アポイントは面倒だ。遠くの人とは会るのが困難。相手が前にいると本音で話せない(面と向かうと言い出せない)。相手が前にいるので、説得力が出る。自分の感情が見られる(ポーカフェイスが苦手)。相手が興味のないときには、上の空で聞かれる。聞きたくないことも耳にはいる。一過性で記録できない。幾ら話してもタダなので、時間が気にならず、落ちついて話せる。意外にお金が掛かる(お茶代、電車代、ガソリン代)。周りの人にも聞こえる(秘密の話は他の手段で伝える)。

(E) 会話の時間数集計

1週間の時間数を記録した回答者のみの1週間の時間数を次に示す。前述の通り、会話と考えた範囲が異なるので、大きくばらつくことになった。

週当たり20時間以下15名、21~40時間10名、41時間以上9名

回答者の中には、140時間を数え上げた者があった。

4. 考 察**4.1 発信記録—定量的取り扱い****(A) 発信手段の回数比較**

回答者が記録した発信手段を、すべての対象者について合計した回数(Table 2.の合計行)について、総回数を100として各発信手段の利用回数の比率を円グラフに書いたのがFig. 1.である。携帯電話が最も多く、全体の3分の1を占める。次いで自宅、この2者で半分以上を超える。ところがこの比率を時間で比較すると、自宅が48%で第1位となり、ほぼ半分に達する。携帯電話は16%で、手紙の13%と並んでしまう。回数比率と時間比率が異なる理由は、自宅電話や手紙の1回当たりの時間が携帯電話より長いためである。この1回当たりの発信時間を、受信者別に計算したのがTable 3.で、対象合計についてみると、携帯5.5分に対して、自宅電話は

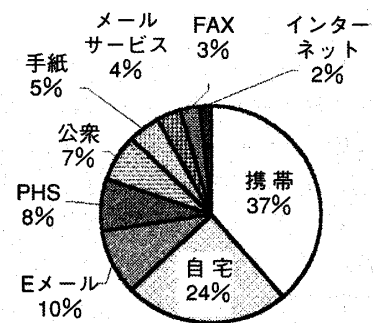


Fig. 1. Frequency Ratio of each Dispatching Method

24.6, 手紙は 35.2 分に達している。

Table 3. を見ると, 自宅電話の時間が長いのは友人と家族のためで, 受信者によって通話時間が大きく異なることがわかる。一方, 携帯電話の通話時間は, 受信者に関係なく短い。彼氏だけは例外である。

Table 3. Average Time per Each Dispatch (単位:分)

受信者	自宅	携帯	PHS	公衆	メールサービス	Eメール	インターネット	FAX	手紙
友人	31.1	5.6	6.7	3.3	0.5	11.4	54.0	2.7	38.1
家族	14.4	3.3	23.5	4.5	—	11.3	40.0	9.3	37.8
彼氏	9.1	17.1	2.5	6.7	0.3	5.3	—	—	—
バイト先	5.2	2.0	—	2.6	—	—	—	3.3	10.0
無記載	16.6	4.8	9.3	1.8	—	7.1	45.9	7.8	7.5
その他	6.5	10.0	—	10.0	—	—	7.5	1.0	4.0
合計	24.6	5.5	7.5	3.6	0.5	11.0	44.5	4.1	35.2

—:該当無し

(B) 受信者別の発信手段比較

受信者として, 友人, 家族, 彼氏, バイト先を選び, それぞれに発信した回数の合計を 100 とし比率を円グラフで表した (Fig. 2.)。友人, 家族, 彼氏は携帯が多いが, バイト先だけは携帯の利用が少ない。友人は各発信手段が多用されており, Eメールの利用も 14% と意外に高い。どの受信者をみても電話(自宅・携帯・PHS・公衆)が大多数を占めていることがわかる。特に彼氏は携帯と自宅電話だけで 82% を占めている。家族やバイト先への発信は公衆電話の利用も目立つ。家族への発信は, 携帯からは「何時に帰る」「いま三宮」「ご飯いらない」など。自宅電話からは, 下宿先から実家への近況報告, または自宅から母や父の携帯電話に連絡するケースが多い。

また時間比率を求めると彼氏以外の受信者で自宅電話が増え, その比率は友人 53%, 家族 42%, 彼氏 32%, バイト先 45% となる。これは Table 3. でみる自宅電話の 1 回当たり時間が携帯電話より長いのが原因である。ただし彼氏の場合は逆になる。

自宅, 携帯, PHS, 公衆の電話合計の比率を Fig. 2. から求めると, 友人 72%, 家族 92%, 彼氏 91%, バイト先 74% となる。いずれも電話が多いが友人, バイト先はやや低い。これは友人は Eメール, 手紙など多様な手段を用いているため, バイト先は FAX で報告などを送っているためである。

(C) 電話における価格の影響

前記 (A, B) の時間比率の考察で述べたように, 携帯電話は短く, 自宅電話は長いことを知った。その理由を通話料金(コスト)にあるのではないかと考え, コストと 1 回当たり平均通話時間の関係を求めた

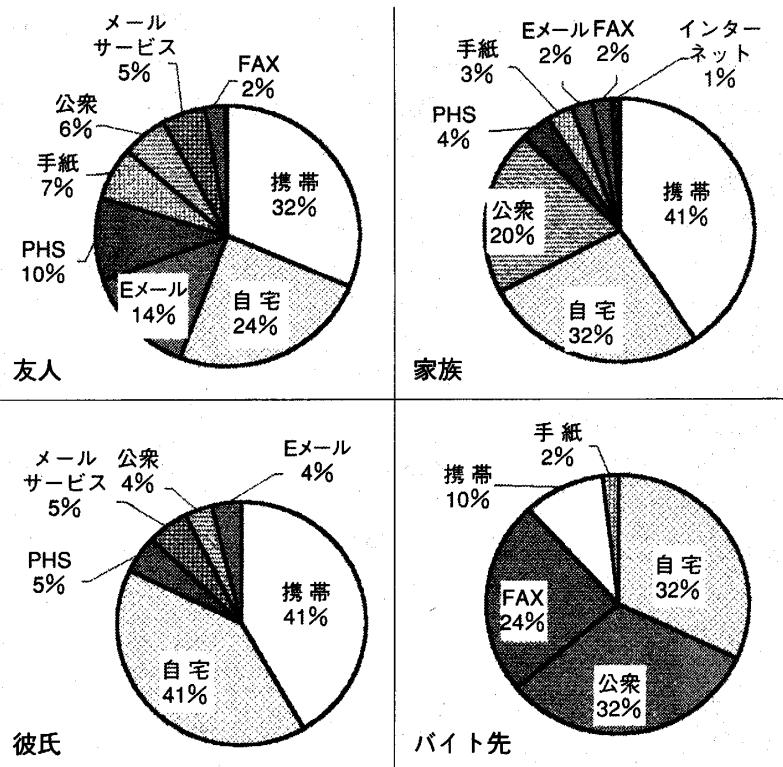


Fig. 2. Frequency Ratio of Dispatch for Each Reciever : 対象者合計100

めに、4種類の電話についてプロットしてみた。その結果は Fig. 3. で、縦軸は1回当たりの通話時間(分)、横軸は昼間の10円で掛けられる時間(秒)で表して、右へ行くほど安い。携帯電話とPHSは、コストにおいても時間においても差が見られないので、プロットが重なることになった。コストが高い携帯・PHSでは短く、安い自宅電話では通話時間が見事に長くなる。なお公衆電話の通話時間が料金の割に短いのは、料金以外の要因が働いて(後ろに並んでいる、電話ボックスが暑い、話を聞かれる、先を急ぐ等)、長電話がしにくいためと思われる。

4.2 発信手段の評価—定性的取り扱い

(A) 発信手段の長所と短所

発信手段の長所と短所について、短所は0点、長所は2点、どちらともいえないものについては1点とし、それぞれの発信手段について前記(3.3)の自由回答に基づいて評価した(Table 4.)。その結果、最も得点が高かった発信手段は自宅電話と公衆電話で、最も得点の低い発信手段はFAXであった。

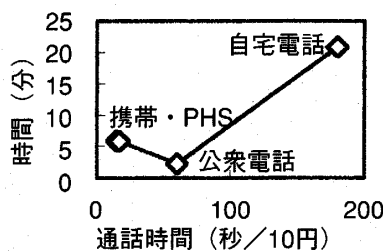


Fig. 3. Influence of Cost on Time for Dispatch

Table 4. Evaluation of Dispatching Method

	内容の 豊富さ	操作の 容易さ	発信の 速さ	プライバシーの 保護	コスト の低さ	着信 確認	総合 評価
自宅電話	1	2	2	0	2	2	9
携帯電話	1	2	2	1	0	2	8
PHS	1	2	2	1	0	2	8
公衆電話	1	2	1	1	2	2	9
FAX	1	1	1	0	2	0	5
メールサービス	0	0	1	2	2	1	6
Eメール	2	0	1	2	2	1	8
インターネット	1	0	1	1	1	2	6
手紙	2	2	0	2	1	0	7

得点 0:無し, 1:どちらともいえない, 2:有り

(B) 会話の評価

発信手段として、前記(3.4)に基づいて会話と他の発信手段を比較した結果を Table 5. に示す。会話の方が勝る項目を○、差がない項目を△、劣る項目を●で表す。それぞれ2点、1点、0点として合計した評価を最下行に示す。

会話は受信者が必ず同席していなければならないことや

嫌な話がしにくく記録性が悪いという不便さがあるが、発信にお金がかからないことや、説得力があることなどが他のすべての発信手段に比べて勝っている。また、相手に内容が伝わっているかどうかがすぐわかること、発信しやすい、ストレス解消になる点でも優れている。

Table 5. Evaluation of Talking

	着信の 確認	ストレス 解消	発信の 容易さ	同席の 必要性	説得力	嫌な話 のしやすさ	記録性	コスト の低さ
自宅電話	△	△	△	●	○	●	△	○
携帯電話	△	△	△	●	○	●	△	○
PHS	△	△	△	●	○	●	△	○
公衆電話	△	○	△	●	○	●	△	○
FAX	○	○	○	●	○	●	●	○
メールサービス	○	○	○	●	○	●	●	○
Eメール	○	△	○	●	○	●	●	○
インターネット	○	△	○	●	○	●	●	○
手紙	○	△	○	●	○	●	●	○
合計	14	12	14	0	18	0	4	18

○: 2点・勝る, △: 1点・どちらともいえない, ●: 0点・劣る

5. 結 論

以上の検討より次のような結論を得た。

- ①携帯電話は、発信手段としての利用回数は最も多く、通話時間は受信者に関係なく短いことがわかった。
- ②自宅電話は発信1回当たりの時間が平均でもっとも長かった。受信時間比率では友人、家族、バイト先が最も高かった。

- ③どの受信者にも4種類の電話が多く利用されているが、他の受信者に比べ友人へは電話以外の情報手段が利用されており、またバイト先はFAX連絡が利用されていた。
- ④電話における価格の影響を調べた結果、価格が高くなれば、通話時間が短くなることがわかった。公衆電話に関しては料金以外の要因が関係していると考えられた。
- ⑤発信手段の長所と短所を比較した結果、最も得点が高い発信手段は自宅電話と公衆電話で、最も得点の低い発信手段はFAXであった。
- ⑥会話について他の情報手段との比較を行った結果、短所として相手と同席する必要があること、嫌な内容の話がしにくいこと、記録性が悪いこと等、長所としてコストの低さ、説得力の強さなどが明確に示された。